

粒状緩効性肥料 マグアンプⅡ

N P K Mg
6-40-6-15

(速効+緩効性…長期持続肥料)
20kg入り

■特長

- マグアンプKの特性を備えた均一な粒状肥料です。
- マグアンプKと同じ肥料成分ですが、価格が安い廉価タイプの肥料です。
- マグアンプⅡ・LサイズはマグアンプK大粒と、マグアンプⅡ・MサイズはマグアンプK中粒と、マグアンプⅡ・SサイズはマグアンプK小粒と同様に使用いただけます。
- 低コスト生産にお応えする、高品質で低価格の肥料です。
- 粒は球形でよく揃い、匂いはほとんど無く、清潔です。
- 植物の初期生育を促す速効性成分と、長期にわたって少しずつ溶出する緩効性成分がバランスよく配合されています。
- 肥料成分の溶出は、土壌水分や温度の影響を受けにくいので、肥料焼けや根傷みの心配が少なく、また雨や灌水による肥料成分の流亡も少ないので、植物の吸収利用率が高い肥料です。
- 各種類ごとに粒子サイズが揃っているため、用土に均一に混合できます。特にMSサイズは2.5～3寸の小さいポットや、用土量の多いプラグトレイ(128穴など)に混合でき、Sサイズは用土量の少ないプラグトレイ(408穴など)にも混合できるサイズです。
- 蒸気消毒前に、用土に混合しても化学反応を起こす心配はありません。



※粒写真はすべて実物大です。

■サイズ・肥効期間・成分(%)

日本肥料登録保証値

サイズ	肥効期間	アンモニア性窒素	<溶性リン酸	内水溶性リン酸	<溶性カリ	内水溶性カリ	<溶性苦土	内水溶性苦土
Lサイズ(約5mm)	約1年	6.0	40.0	5.0	6.0	3.5	15.0	1.0
Mサイズ(約3mm)	約半年							
MSサイズ(約2mm)	約3ヵ月							
Sサイズ(約1mm)	約1.5ヵ月							

※ピート単用土などでは、一般の用土と比較し、やや保肥力が小さいので肥効期間が多少短くなる場合があります。

※肥効期間は、用土や栽培方法により異なりますので、一つの目安とお考えください。

■施肥方法・施肥量

- 土に混合し元肥用として使用。
 - 土の表面に置肥として使用。
- 置肥として使用する場合は、混合時と比べると、肥料成分の溶出が緩やかになります。
- ※底面吸水栽培には、Lサイズ、Mサイズをおすすめいたします。

使用用途	種類	施肥方法	標準量
切花	L	元肥として用土に混合します。(10～20cmの深さにすき込む)	500g～1.5kg/3.3㎡
鉢物	L・M・MS	元肥として用土に混合します。	L・M 2～3g/用土1ℓ、MS 1～2g/用土1ℓ
花壇苗生産	L・M・MS	元肥として用土に混合します。	L 3g/用土1ℓ、M 2～3g/用土1ℓ MS 1～2g/用土1ℓ
シンビジウム	L	元肥として用土(バークなど)に混合します。	3～5g/用土1ℓ
洋ラン類	L	鉢の表面に置肥します。	1g/用土1ℓ(置肥)
	L・M	元肥として用土(バークなど)に混合します。	1～2g/用土1ℓ(水苔には混合しないでください)
プラグ苗	MS・S	元肥として播種用土に混合します。	MS 1～2g/用土1ℓ、S 1～1.5g/用土1ℓ (肥料入り調整ピートの場合は半量が目安)
植栽緑化	花壇苗植付け、芝生	L・M	元肥として用土に混合します。(約10cmの深さにすき込む)
	芝生追肥	S	芝生の上へ均一にばらまきます。
	花木・樹木/定植時	L	根土の下に施肥します。
	花木・樹木/追肥時	L	外枝の下に施肥します。

山野草にも使われています。

※施肥量は植物の種類、生育状態、気象条件、用土、灌水方法などにより異なりますので、一つの目安とお考えください。

※施肥にあたっては、一度お試しのうえ、施肥量をお決めください。

※酸性用土(pH5以下)では、溶出量がやや多くなりますので、標準量の1/2の量を施肥してください。

※ピート単用土などでは、初期溶出量がやや多くなりますので、標準量の2/3～1/2の量を施肥してください。

●施肥方法、施肥量の詳細につきましては、当社までお問い合わせください。